

カシスの枝幹害虫 スグリコスカシバを 生物農薬 バイオセーフにより防除する

カシスでは枝幹害虫スグリコスカシバの発生が問題になっていますが、これまで本種の防除に使える農薬はありませんでした。

平成26年7月23日にバイオセーフ(スタイナーネマ カーポカプサエ)が、ふさすぐり(カシス)のスグリコスカシバ防除に使えるようになったので、その使い方を紹介します。

バイオセーフとは、昆虫に寄生して死亡させる天敵線虫(スタイナーネマ カーポカプサエ)を有効成分とした生物農薬です。

処理方法

スグリコスカシバの幼虫が発生しているカシスに



茎の中にあるスグリコスカシバの幼虫

散布時期は
秋
(9月中～下旬)

- ◆線虫(バイオセーフ)の活動温度帯(15～30℃)
- ◆スグリコスカシバの幼虫の生態
- ◆虫糞の排出
- ◆カシス果実の有無を考慮した、散布に適した時期

バイオセーフの薬液(2,500万頭/25L)を



薬液に直射日光が当たらないように、黒いポリ袋などで薬液を覆います。

調整

直射日光の当たらない場所
で調整

水 25L
水温 15℃以上 30℃以下

バイオセーフ 1包装
1包装(2,500万頭入りトレイ)単位で使用

使用直前まで冷暗所で保管(約5℃)
有効期限 4か月

動力噴霧器で虫糞の排出箇所を中心に立木全面散布



散布量は成木で1～5L程度(樹の大きさに加減)



虫糞の排出箇所(○印)を中心に薬液を散布します。(虫糞を除去しないで、薬液が枝幹全体にかかるように)

雨天時の散布で効果が高い
(晴天時は効果が低い)

使用上の注意点

散布は晴天時には行わない

- ◆乾燥条件下では、線虫の活動が低下する。
- ◆小雨時、あるいは枝や幹が充分濡れている時に散布する。

薬液調整後は速やかに散布する

線虫は沈みやすいので薬液をかき混ぜながら散布

お問い合わせ

りんご研究所 県南果樹部 (Tel.0178-62-4111)